

# イメージバックアップ ファイナル 丸ごとバックアップ

—Ver.14—

簡易マニュアル

Professional Edition

**AOS**

©2005-2019 AOS DATA, Inc.  
O&O Software GmbH All rights reserved.  
日本語版開発・販売：AOS データ株式会社

# 目 次

はじめに	3
本書の構成と読みかた	4
準 備	6
必要なシステム	6
注意事項	7
インストール	8
ライセンス登録	10
アンインストール	11
概 要	12
主な機能	12
バックアップの種類	14
完全バックアップと追加バックアップ	14
増分バックアップと差分バックアップ	15
バックアップの前に	16
起動可能なメディアを作成する	16
自動バックアップメディアの作成	16
起動可能メディアの作成	17
バックアップ	22
おまかせバックアップ	22
ドライブのバックアップ	25
ドライブバックアップの各種の設定	28
ドライブバックアップの設定項目	28
バックアップのスケジュール設定	30
追加バックアップ	33
追加バックアップのスケジュール設定	36
ファイルのバックアップ	40

## 復 元 43

ドライブの復元 43

システムディスクを復元する 48

起動メディアを使用して復元する 48

ファイルやフォルダーの復元 52

バックアップファイルをドライブとして割り当て 56

アクセス資格情報の設定 60

## 付 録 63

FAQ よくある質問 63

技術サポート情報 70

使用許諾契約書 72

# はじめに

このたびは、「ファイナル丸ごとバックアップ(以下、「本ソフトウェア」)をご購入くださいます、誠にありがとうございます。

本ソフトウェアは、パソコンのハードディスクを丸ごとバックアップし、必要に応じて復元するためのソフトウェアです。

本ソフトウェアは、使用許諾の合意書に基づいて提供されるもので、合意書の条項に従う場合にのみ使用することができます。本ソフトウェアには、パソコンソフトウェア、およびそれに関連した媒体、ならびに印刷物(マニュアルなどの文書)、「オンライン」または電子文書が含まれることもあります。

本書に記載された内容は情報の提供のみを目的としており、予告なしに変更されることがあります。

## 本書の構成と読みかた

本書は、ホーム画面からの操作に合わせ、次のように構成されています。本書に記載されていない高度な機能の詳細については、オンラインヘルプをご覧ください。オンラインヘルプは、本ソフトウェアを実行しているときにF1キーを押すと表示できます。または、インターネットブラウザで次のURLにアクセスしてください。

**<http://finaldata.jp/marugoto/14/help/index.html>**

### ▶ 準備

本ソフトウェアを使うためのインストールやライセンス認証、およびアンインストールの方法について説明します。

本ソフトウェアをご使用になる前に必ずお読みください。

### ▶ 概要

本ソフトウェアの機能と、バックアップの基本的な知識について説明します。

本ソフトウェアをご使用になる前に必ずお読みください。

### ▶ バックアップの前に

バックアップを開始する前に行う、起動可能なメディアの作成について説明します。

### ▶ バックアップ

ドライブのバックアップ、追加バックアップ、ファイルのバックアップ、および簡単な手順で行えるおまかせバックアップについて説明します。

必要なページをお読みください。

## ▶復元

ドライブ単位およびフォルダー/ファイル単位での復元方法について説明します。バックアップの前に作成した、起動可能なメディアから起動して、システムの復元を行う方法もこちらです。  
必要なページをお読みください。

## ▶付録

本ソフトウェアのメニュー、および各種の資料などが記載されています。  
必要に応じてお読みください。

## 必要なシステム

本ソフトウェアを使用するためには、以下のシステムが必要になります。

PC本体	下記OSが正常に動作するPC/AT 互換機
OS	日本語版 Windows® 10/Windows® 8(8.1)/ Windows® 7 (32/64bit 版 OS に対応) ※ Embedded エディションでは、OS を構成するコン ポーネントによってはサポート外となることがあり ます。 ※ Windows 10 の Insider Preview ビルドはサポート 外です。
ハードディスク	50MB 以上の空き容量 (バックアップファイルを保存するた めの空き容量が別途必要です)
光学ドライブ	2 倍速以上の CD/DVD/Blu-ray ドライブ
ディスプレイ	65536 色以上の XGA (1024 × 768) ディスプレイ
その他	外付けハードディスク (起動メディア作成の際に必要) USB メモリ (起動メディア作成の際に必要) インターネット環境 (ライセンス認証、およびオンラインアッ プデートの際に必要)



- 作成した起動可能なメディアから起動して、システムドライブを復元する場  
合は、1GB 以上のメモリが必要です。
- 本ソフトウェアを使用する前に、OS が使用するディスクドライバのバー  
ジョンが最新であることを確認してください。確認できない場合は、ドライ  
バの更新で確認をしてください。

## 注意事項

- ディスクにエラーや不良セクタがある場合、正常にバックアップや復元ができないことがあります。
- Windowsがセーフモードで起動している場合、本ソフトウェアを実行することはできません。
- バックアップできるのは、物理的に接続されているローカルディスクやUSBハードディスクなどのみです。ネットワークドライブはバックアップできません。
- バックアップファイルの保存先は、バックアップするシステムハードディスク以外の場所(外付けハードディスクやネットワークの共有フォルダーなど)をお勧めします。内蔵のハードディスクに保存することもできますが、内蔵ハードディスクが故障した際にバックアップファイルは失われ、復元できなくなる恐れがあります。
- 本ソフトウェアの実行には、管理者権限(Administrator)が必要です。
- ファイルのバックアップの際、複数のディスク内のファイルやフォルダーを同時に選択すると、正しいバックアップが行われなくなる可能性があります。
- 外付けハードディスクを使用してバックアップや復元を行う際には、外付けハードディスクが問題なくWindowsから認識できていることをご確認ください。
- 本書に記載されていない高度な機能の詳細については、オンラインヘルプをご覧ください。オンラインヘルプは、本ソフトウェアを実行しているときにF1キーを押すと表示できます。または、インターネットブラウザで次のURLにアクセスしてください。

**<http://finaldata.jp/marugoto/14/help/index.html>**

- オンラインアップデートを行うには、インターネット環境が必要になります。



# インストール



●他のバックアップソフトがインストールされていると、ドライブの競合が発生する場合があります。本ソフトウェアをインストールする前に、それらのソフトウェアをアンインストールしておいてください。

本ソフトウェアは、次の手順でインストールします。

**1 インストール先のパソコンを起動し、管理者権限のあるユーザでログインします。**

**2 セットアップディスクを挿入します。**

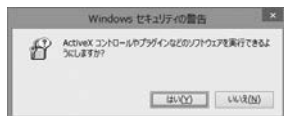
自動的にメニューが表示されます。

左のメニューから、「ファイナル丸ごとバックアップ」をクリックして、次の画面で「インストール」をクリックしてください。





- 自動的にメニューが表示されない場合は、WindowsエクスプローラーからセットアップCDを開き、CD内の [SETUP] フォルダーにある oocdrun.exe ファイルをダブルクリックしてください。
- 次のダイアログが表示される場合があります。「はい」をクリックしてください。



### 3 以降、画面の指示に従って操作してください。



### 4 再起動を促された場合、パソコンを再起動します。



- 再起動後、最新版プログラムのチェックがインターネットを経由して行われます。インターネット環境をご用意ください。
- 最新版プログラムが見つかった場合は、アップデートを促すメッセージが表示されますので、画面の指示通りに操作を行ってください。

## ライセンス登録

インストールが完了したら、ライセンス登録します。



- ライセンスキーは、ダウンロード版をご購入の場合は、ご注文時に弊社よりお送りした確認メールに記載されています。また、パッケージ版をご購入の場合は、同梱のライセンスカードに記載されています。
- 本ソフトウェアの体験版は、インストール後、30日間ご使用いただけます。使用できる日数は起動時に表示されます。なお、体験版でも、使用できる機能に制限はありません。
- OEM版では、この手順は省略されることがあります。
- ライセンス認証を行うには、インターネット環境が必要になります。

### 1 本ソフトウェアを起動します。

### 2 [ライセンスキーを入力し、製品版を使用する] を選択し、[次へ] をクリックします。

### 3 お名前、ライセンスキー、および会社名(任意)を入力し、[次へ] をクリックします。



- ライセンスキーは半角英数字で入力してください。

### 4 以降、画面の指示に従って操作します。

すべて完了すると、ファイナル丸ごとバックアップのホーム画面が表示されます。

## アンインストール

本ソフトウェアは、次の手順でアンインストールします。

### 1 コントロールパネルを開きます。

コントロールパネルは、Windows 7は、[スタート] メニュー > [コントロールパネル] から開きます。

Windows 8の場合は、デスクトップを開き、[チャーム] > [設定] > [コントロールパネル] から開きます。

Windows 8.1/10の場合は、画面左下のWindows アイコンを右クリックして、[コントロールパネル] をクリックします。

### 2 「プログラムのアンインストール」をクリックします。

### 3 [ファイナル丸ごとバックアップ]を選択し、[アンインストール]をクリックします。

### 4 アンインストールのウィザードが表示されます。以降、画面の指示に従って操作してください。

### 5 アンインストールが完了したら、パソコンを再起動します。

# 概 要

本ソフトウェアのドライブバックアップ機能は、バックアップの際にフォルダーやファイル単位でコピーを作成するのではなく、ハードディスク全体または個別のパーティション、あるいはファイルなどを、丸ごとバックアップします。たとえば、本に書かれている内容を記憶する際、熟読して内容を理解して覚えるのではなく、写真に撮ったように覚えてしまうのが本ソフトウェアのバックアップ方式です。

## 主な機能

本ソフトウェアには次の機能があります。

### (1) バックアップ

ハードディスク全体や個別のパーティションなどを丸ごとバックアップします。バックアップは、ドライブ、ディスク（システムパーティションを含む）単位のほか、個別のフォルダー、ファイル単位で行えます。

本ソフトウェアで初めてバックアップを行うときには、ワンクリックで行えるバックアップ機能もあります（おまかせバックアップ）。

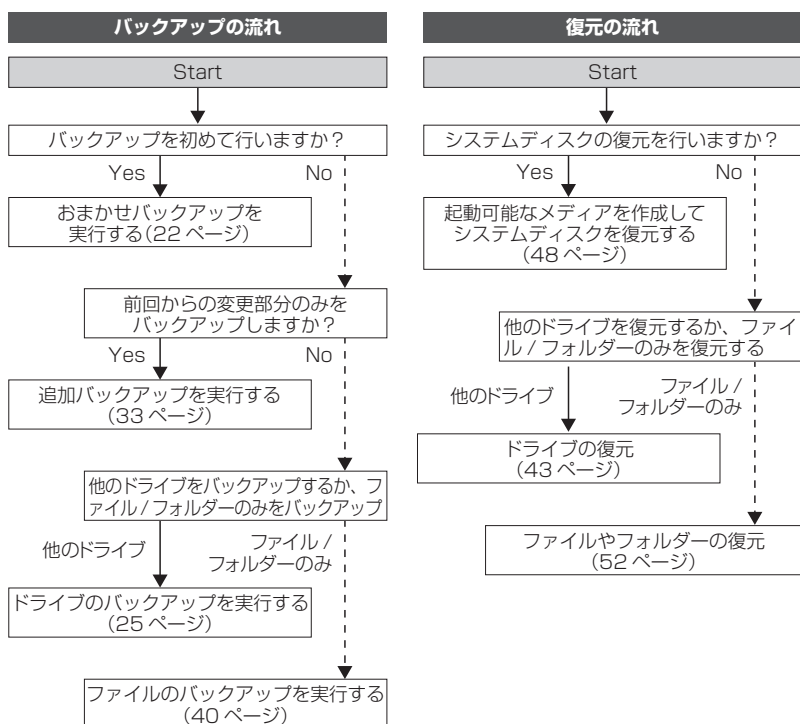
バックアップ対象全体のバックアップがすでに行われている場合には、その後に変更部分だけをバックアップすることもできます（追加バックアップ）。なお、バックアップの種類については、14ページをご覧ください。

### (2) 復元

保存されているバックアップファイルからドライブ、ディスク、フォルダー、ファイルをバックアップしたときと同じ状態に戻します。

また、本ソフトウェアでは、起動可能なメディア（CD-RやUSBメモリなど）を作成し、システムドライブを復元することもできます。

復元は、ドライブ、ディスク（システムパーティションを含む）、フォルダー、ファイル単位で行えます。



### (3) その他の機能

次の機能については、オンラインヘルプをご覧ください。オンラインヘルプは、本ソフトウェアを実行しているときにF1キーを押すと表示できます。または、インターネットブラウザで次のURLにアクセスしてください。

<http://finaldata.jp/marugoto/14/help/index.html>

- ドライブの複製
- ハードウェアに依存しない復元
- メール通知機能
- 仮想ハードディスクへの対応
- 安全なデータ暗号化

## バックアップの種類

本ソフトウェアで行うバックアップの方法は、バックアップ元（ディスクまたはドライブ）の完全なコピーです。このコピーには、バックアップ元にあるファイルがすべて含まれているだけでなく、通常、ユーザーが見ることのできないOSが使用する特殊なデータやディスク情報/ドライブ情報なども含まれています。

このため、バックアップ元のディスク/ドライブ情報が失われた状態でも復元できます。つまり、定期的にドライブをバックアップしておけば、元のドライブ上のデータが失われたり破損した場合でも、バックアップした時点とまったく同じ状態に回復することができます。



### ドライブ/パーティション

- パーティションとは、ハードディスク上に確保された領域です。ドライブとは、パーティションのうちアクセス可能なものです。通常、ハードディスク上は複数のパーティションに区切られており、CドライブやDドライブとして認識されています。また、ドライブとしては認識されませんが、リカバリのためのパーティションなどもあります。

## 完全バックアップと追加バックアップ

バックアップには、完全バックアップと追加バックアップの2種類があります。

**完全バックアップ**は、初回に行うバックアップで、選択されたバックアップ対象のすべてのデータをバックアップします。

**追加バックアップ**は、前回のバックアップ時から変更された部分のみのバックアップです。

追加バックアップの際に、変更部分の比較を行うためのバックアップファイルを、**基となるバックアップファイル**と呼びます。基となるバックアップファイルとして、完全バックアップファイル、および前回の追加バックアップファイルを指定できます。



たとえば、図の追加バックアップ②は、完全バックアップと追加バックアップ①と現在のハードディスクの状態を比較して作成されます。

このようにバックアップを進めると、1つの完全バックアップファイルと最新状態までの複数の追加バックアップファイルが作成されています。

## 増分バックアップと差分バックアップ

追加バックアップには、増分バックアップと差分バックアップの2種類があります。

前回の追加バックアップファイルを、基となるバックアップファイルとして使用した場合、**増分バックアップ**となります。増分バックアップでは、作成した追加バックアップファイルを、さらに次の追加バックアップの際の基となるバックアップファイルとして使用できます。増分バックアップファイルからデータを復元する場合は、最初の完全バックアップファイルと、それ以降のすべての追加バックアップファイルが必要になります。

基となるバックアップファイルとして、最初の完全バックアップファイルを使用した場合、**差分バックアップ**となります。増分バックアップとは異なり、作成した追加バックアップファイルを、さらに次の追加バックアップの際の基となるバックアップファイルとして使用することはできません。常に最初の完全バックアップから変更された部分のみがバックアップされます。差分バックアップファイルのサイズは、一連の増分バックアップファイルよりも大きくなります。



●通常、増分バックアップと差分バックアップの違いや使い分けは、意識する必要はありません。



# バックアップの前に

## 起動可能なメディアを作成する

### 自動バックアップメディアの作成

バックアップを保存する外付けハードディスク(または十分な容量のUSBメモリ)をブートメディアとして設定します。この外付けハードディスクをパソコンに接続するとパソコン内のすべてのドライブを自動的にバックアップして保存します。

#### 1 自動バックアップメディアを作成する外付けハードディスク(またはUSBメモリ)をパソコンに接続します。



●自動バックアップメディアを作成すると、外付けハードディスク、USBメモリ内のデータはすべて消去されます。

#### 2 ホーム画面の「起動可能なメディアの作成」をクリックします。



#### 3 リムーバブルメディアを選択して、[作成]をクリックします。

リムーバブルディスク接続時のバックアップ設定にチェックを入れます。パスワードの設定を求められた場合はパスワードを設定します。



4 作成が完了しましたら[完了]をクリックします。

## 起動可能メディアの作成

1 USBメモリを起動可能なメディア(以下、起動メディア)にする場合、USBメモリをパソコンに接続します。



●USBメモリに起動メディアの作成を行うと、USBメモリ内のデータはすべて消去されます。

2 ホーム画面の「起動可能なメディアを作成」をクリックします。



### 3 [前のビューに切り替える]をクリックします。



### 4 [作成]をクリックします。



起動メディアの作成処理方法が自動的に決定されます。起動メディアを作成するためのファイル構築が開始されます。

各作成処理方法の詳細は、次のとおりです。

- **Windows 回復環境 (Windows RE)**

Windows回復環境のファイルを使用して起動メディアを作成します。別途用意するプログラムはありません。

#### • Windows アセスメント&デプロイメントキット(Windows ADK)

Windows アセスメント&デプロイメントキットのコンポーネントを使用して起動メディアを作成します。Windows ADKがパソコンにインストールされていない場合は、右のダウンロードボタンからMicrosoftのダウンロードサイトを表示し、「Windows ADK」をダウンロードしてインストールしておいてください。ただし、Windows Vistaでは、この方法は使用できません。

#### • Windows 自動インストールキット(Windows AIK)

Windows 自動インストールキットのコンポーネントを使用して起動メディアを作成します。Windows AIKがパソコンにインストールされていない場合は、右のダウンロードボタンからMicrosoftのダウンロードサイトを表示し、「Windows AIK」をダウンロードしてインストールしておいてください。この方法は、一部の64BitOSが搭載されたパソコンでは使用できないことがあります。

#### • Windows インストールメディア

Windows インストール用のディスクから起動メディアを作成します。Windowsのインストールディスクが必要です。パソコン付属のリカバリーメディアは使用できません。



- Windows インストールメディアは、現在インストールされているOSのバージョンと同じものを使用してください。

例) 現在 Windows 10 がインストールされている場合は、Windows 10 のインストールメディアを使用してください。この場合、Windows 10 以外のインストールメディア (Windows 8.1 など) は使用できません。



- OS やパソコンの機種によって、使用できる作成処理方法が異なります。
- 作成処理方法は自動的に決定されます。任意で指定したい場合は「起動可能なドライブの作成処理を手動で選択する」を有効にしてください。
- お使いのパソコンのUSBポートが3.0のみの場合は「Windows ADK」をご利用ください。

## 5 ファイル構築が完了したら、[次へ]をクリックします。

## 6 作成先を指定します。



USBメモリに書き込む場合は、上の選択ボックスでUSBメモリを選択します。



- 選択したUSBメモリ内のデータはすべて消去されます。また、USB外付けハードディスクも表示されるため、間違いのないように指定してください。
- この方法で直接CD/DVDに書き込むことも可能です。空のCD/DVDをCD/DVDドライブに挿入し、選択ボックスでCD/DVDドライブを選択してください。

ISOファイルとして保存する場合は、下の入力ボックスでISOファイルの保存場所とファイル名を指定します。[...]をクリックすると、保存場所を参

照できます。保存場所にCD/DVD ドライブを選択することはできません。一度ハードディスクなどを選択して保存してください。



- 必ず拡張子"ISO"まで入力してください。



- 保存したISO ファイルは、お使いのCDライティングソフトでISO形式として書き込みを行ってください。書き込まれたCD、DVDは起動メディアとして使用できます。

目的のドライブが表示されない場合は、[再読み込み] をクリックしてください。

## 7 [作成]をクリックします。

処理が開始されます。

## 8 処理終わったら[完了]をクリックします。

# バックアップ

## おまかせバックアップ

本ソフトウェアを使用して初めてバックアップを行う場合は、おまかせバックアップが簡単で便利です。

おまかせバックアップでは、パソコンに内蔵されているすべてのハードディスクがバックアップされます。作成されるバックアップファイルは完全バックアップファイルです。

### 1 ホーム画面から【おまかせバックアップ】をクリックします。



### 2 ドライブのバックアップダイアログで、【対象先】欄内のバックアップファイルの保存先とファイル名を確認します。





- 保存先は、[...]をクリックすると変更できます。保存先は、バックアップするシステムハードディスク以外の場所（外付けハードディスクやネットワークドライブなど）をお勧めします。
- 保存されるバックアップのファイル名は変更できます。

### 3 [開始]をクリックします。

バックアップが開始されます。

バックアップが完了したら、レポートが表示されます。



- バックアップには、時間がかかります（接続されているハードディスクの容量や使用状況などによって異なります）。完了まで、パソコンをシャットダウンしないでください。
- バックアップ先（バックアップファイルの保存先）には、十分に余裕のあるドライブを指定してください。
- バックアップ中に空き容量が足りなくなった場合、別の保存フォルダーの指定を促すメッセージが表示され、バックアップファイルは分割されます。バックアップファイルが分割されても、復元する際にすべての分割バックアップファイルが一つのフォルダーにあれば、復元は可能です。
- ネットワークの共有フォルダーをバックアップファイルの保存先として指定した場合、アクセス資格情報の設定を行う必要があります。次のメッセージが表示されたら[はい]をクリックしてアクセス資格情報を設定してください。  
詳しくは、「アクセス資格情報の設定」(60ページ)をご覧ください。





### 4 [閉じる]をクリックします。

ドライブのバックアップ画面に戻ります。



- ドライブのバックアップダイアログで [設定] をクリックすると、作成するバックアップファイルにコメントを付けたり、バックアップ完了後の処理を設定できます。
- [ツール] リボンバー内の [バックアップファイル情報] をクリックすると、選択したバックアップファイルの情報を表示できます。
- [ツール] リボンバー内の [バックアップファイルの検証] をクリックすると、選択したバックアップファイルに問題がないかどうかを検証できます。

# ドライブのバックアップ

バックアップするディスクやドライブを選択してバックアップします。  
システム全体をバックアップすることもできますし、ディスク中の特定のパーティション(ドライブ)のみをバックアップすることもできます。

## 1 ホーム画面で[ドライブのバックアップを開始]をクリックします。



## 2 バックアップする対象にチェックマークを付けます。

画面例のシステムには、2台のハードディスク (0~1) が接続されています。  
[ディスクX] (例では「ディスク0」) にチェックマークを付けると、ディスク内のバックアップ可能なすべてのパーティションが自動的に選択されます。





## 5 [開始]をクリックします。

バックアップが開始されます。

バックアップが完了したら、レポートが表示されます。



- バックアップには、時間がかかります（接続されているハードディスクの容量や使用状況などによって異なります）。完了まで、パソコンをシャットダウンしないでください。
  - バックアップ先（バックアップファイルの保存先）には、十分に余裕のある場所を指定してください。
  - バックアップ中に空き容量が足りなくなった場合、別の保存フォルダーの指定を促すメッセージが表示され、バックアップファイルは分割されます。バックアップファイルが分割されても、復元する際にすべての分割バックアップファイルが一つのフォルダーにあれば、復元は可能です。
  - ネットワークの共有フォルダーをバックアップファイルの保存先として指定する場合、アクセス資格情報の設定を行う必要があります。次のメッセージが表示されたら [はい] をクリックしてアクセス資格情報を設定してください。
- 詳しくは、「アクセス資格情報の設定」(60 ページ)をご覧ください。



## 6 [閉じる]をクリックします。

ドライブのバックアップ画面に戻ります。



- ドライブのバックアップダイアログで [設定] をクリックすると、作成するバックアップファイルにコメントを付けたり、バックアップ完了後の処理を設定できます。
- [ジョブとして追加] をクリックすると、一定期間ごとに自動的にドライブのバックアップを行えます。
- [ツール] リボンバー内の [バックアップファイル情報] をクリックすると、選択したバックアップファイルの情報を表示できます。
- [ツール] リボンバー内の [バックアップファイルの検証] をクリックすると、選択したバックアップファイルが正しいかどうかを検証できます。

# ドライブバックアップの各種の設定

ドライブバックアップの処理方法や動作を設定します。

**1** 【ドライブ操作】リボンバー内の【ドライブのバックアップ設定】をクリックします。

**2** 各項目を設定します。



**3** 【OK】をクリックします。

# ドライブバックアップの設定項目

設定できる項目は次のとおりです。

## 【バックアップファイル】タブ

**バックアップ方式** ファイルの種類を、ドライブバックアップファイル(\*.omg)、または仮想ハードディスクファイル(\*.vhd / \*.vhdx)から選択します。

### 完全バックアップ

完全バックアップファイルを作成します。次のバックアップ方式を選択できます。

### 使用中セクター方式

使用されているセクターのみをバックアップします。

この方法では、バックアップを保存するディスクスペースも小さく、また処理時間も短くて済みます。

バックアップ方式	<p><b>全セクター方式</b> 未使用領域や消去された領域を含めて、すべてのセクターをバックアップします。 この方式では、バックアップ元のドライブからすでに消去されたデータのあるセクターもバックアップされますので、あとで弊社製 FINALDATA のようなデータ復元ソフトでデータの復元を試みることも可能になります。</p> <p><b>拡張全セクター方式</b> 全セクター方式と同様にすべてのセクターをバックアップします。 この方式では、ドライブ全体が暗号化されている場合のみ有効です。通常、この方式を選択することはありません。</p> <p><b>追加バックアップ</b> 最後のバックアップ時点からの変更部分だけをバックアップします。 追加バックアップを選択した場合には、基となるバックアップファイルを指定する必要があります。 ※仮想ハードディスクファイル (*.vhd / *.vhdx) をファイルの種類として選択した場合、これを選択することはできません。</p>
ファイルサイズ	<p>※仮想ハードディスクファイル (*.vhd / *.vhdx) をファイルの種類として選択した場合、ファイルサイズの設定を変更することはできません。</p> <p><b>バックアップファイルを圧縮してディスクの容量を節約する</b> バックアップファイルを圧縮して保存できます。</p> <p><b>LZNT1</b> データ圧縮率よりも、処理に速さを優先した圧縮方式です。</p> <p><b>BZIP2</b> 処理時間よりも圧縮率の高さを優先した圧縮方式です。</p> <p><b>バックアップファイルを小さいサイズの複数のファイルに分割する</b> バックアップファイルを CD や DVD に保存する場合などに、バックアップファイルのサイズを制限して複数のファイルに分割します。</p>
セキュリティ	<p><b>バックアップファイルを暗号化する</b> ※仮想ハードディスクファイル (*.vhd / *.vhdx) をファイルの種類として選択した場合、セキュリティの設定を変更することはできません。 バックアップファイルを AES 方式で暗号化します。3 種類の暗号強度を指定できます。</p>

[高度]タブ	
ファイルの除外	バックアップや圧縮対象から除外するものを、フォルダー/ファイルや拡張子で指定できます。ただし、バックアップ対象除外は、使用中セクター方式でバックアップする場合のみ有効です。 [...]をクリックすると表示されるダイアログで指定します。
バックアップ処理	<p><b>読み取り処理中、自動的に不具合のあるセクターを無視してスキップする。</b> エラーのあるセクターを空きセクターとして自動的に処理します。</p> <p><b>バックアップ中のドライブをロックする</b> バックアップ中のドライブをロックして変更を禁止します。 ロックされたドライブはエクスプローラーから一時的に表示されなくなります。バックアップ完了後に再び表示されます。 他のアプリケーションで使用中などの理由によってドライブをロックできなかった場合には、その変更は一時ファイルに保存されます。</p> <p><b>チェックサムを使用して変更されていないデータを管理する</b> 追加バックアップの時にを行うバックアップの種類（増分・差分）を切り替えます。有効にすると増分バックアップ、無効にすると差分バックアップとなります。通常は「有効」のままご利用ください。詳しくはオンラインヘルプをご覧ください。</p>



- 設定を変えると、「現在のプロファイル」は[ユーザー定義]に変わります。
- [名前を付けて保存] をクリックすると、現在の設定状態をプロファイルとして保存できます。
- [プロファイルの管理] をクリックすると、保存したプロファイルの編集（名前の変更や削除）や表示順を変更できます。

## バックアップのスケジュール設定

[ジョブとレポート] リボンバー内の [ウィザードを開始] をクリックすると、スケジュールで定期的にバックアップを行うジョブを作成できます。

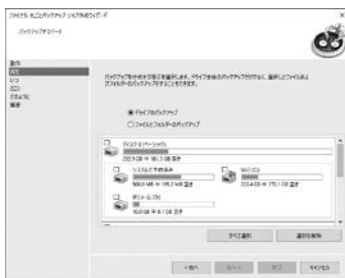
ドライブ全体のバックアップのジョブ作成を例に、ウィザード内では以下の通り操作を行います：



## 1 「バックアップ」を選択して[次へ>]をクリックします。



## 2 「ドライブのバックアップ」を選択し、ドライブ全体のバックアップを行うために、[ディスク 0]にチェックを入れます。 選択後[次へ>]をクリックします。



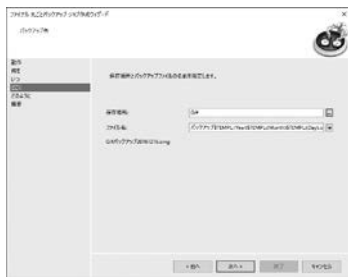
## 3 ジョブを実行するスケジュールを指定します。 指定後[次へ>]をクリックします。





## 4 バックアップファイルの保存場所と名前を指定します。指定後 [次へ>] をクリックします。

ファイル名欄右の[▼]ボタンのパラメーターで動的なファイル名をつけることができます(例えば、スケジュール開始日やユーザー名など)。



●バックアップ先(バックアップファイルの保存先)には、十分に余裕のある場所を指定してください。

## 5 バックアップの設定を行います。通常は何も変更せず [次へ>] をクリックします。



## 6 [終了]をクリックします。設定された内容でジョブが作成されます。



## 追加バックアップ

一度完全バックアップを行うと、それ以降は変更された部分だけをバックアップするだけですべてのデータをバックアップできます。

追加バックアップを使うと、毎回完全バックアップを行うよりもバックアップファイルのサイズを小さくできます。

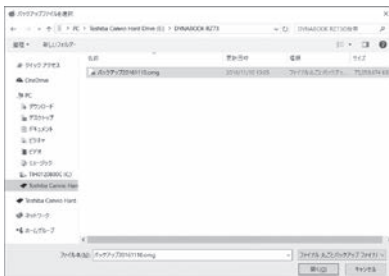


●バックアップにかかる所要時間は、完全バックアップと同等になります。

### 1 ホーム画面で[追加バックアップ]をクリックします。



### 2 基となるバックアップファイルを選択し、[開く]をクリックします。



初めて追加バックアップするときには、完全バックアップファイルを選択します。

2回目以降のバックアップを行うときには、最後に行った追加バックアップファイルを選択できます。バックアップ設定のバックアップ処理 (30 ページ) で「チェックサムを使用して変更されていないデータを管理する」を無効にしている場合は、完全バックアップファイルを選択して下さい。



- バックアップファイルは、バックアップしたときに指定した場所 (外付けハードディスクやネットワークの共有フォルダーなど) にあります。外付けハードディスクなどにバックアップファイルを保存しなかった場合、バックアップファイルは次のフォルダーにあります。

C:\¥ProgramData¥ファイナル丸ごとバックアップ¥ファイナル丸ごとバックアップ¥バックアップ ファイル¥

このフォルダーは隠しフォルダーとなっていますので、次の方法で隠しフォルダーを表示してください。

- ・ Windows 7 の場合

エクスプローラーの [整理] ボタンからフォルダーと検索のオプションをクリックし、[表示] タブで隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示するを有効にします。

- ・ Windows 8(8.1)/10 の場合

エクスプローラーのリボンメニューから [表示] タブを選択して、隠しファイルを有効にします。

ドライブのバックアップダイアログが表示されます。

### 3 バックアップする対象、およびバックアップファイルの保存先とファイル名を確認します。





- 保存先は、[...]をクリックすると変更できます。保存先は、バックアップするシステムハードディスク以外の場所（外付けハードディスクやネットワークの共有フォルダーなど）をお勧めします。
- 保存されるバックアップのファイル名は変更できます。

## 4 [開始]をクリックします。

追加バックアップが開始されます。

バックアップが完了したら、レポートが表示されます。



- バックアップには、時間がかかります（接続されているハードディスクの容量や使用状況などによって異なります）。完了まで、パソコンをシャットダウンしないでください。
- バックアップ先(バックアップファイルの保存先)には、十分に余裕のある場所を指定してください。
- バックアップ中に空き容量が足りなくなった場合、別の保存フォルダーの指定を促すメッセージが表示され、バックアップファイルは分割されます。バックアップファイルが分割されても、復元する際にすべての分割バックアップファイルが1つのフォルダーにあれば復元は可能です。

## 5 [閉じる]をクリックします。

ドライブのバックアップ画面に戻ります。



- ドライブのバックアップダイアログで [設定] をクリックすると、作成するバックアップファイルにコメントを付けたり、バックアップ完了後の処理を設定できます。
- [ツール] リボンバー内の [バックアップファイル情報] をクリックすると、選択したバックアップファイルの情報を表示できます。
- [ツール] リボンバー内の [バックアップファイルの検証] をクリックすると、選択したバックアップファイルに問題がないかどうかを検証できます。

## 追加バックアップのスケジュール設定

**追加バックアップのスケジュールを設定するには、一度完全バックアップを行う必要があります。**完全バックアップファイル、基となるバックアップファイルとして選択したジョブを作成します。



- バックアップのスケジュール設定 (30 ページ) から追加バックアップのスケジュール設定を行うことも可能です。この場合、常に差分バックアップとなります。

追加バックアップのジョブ作成は、次の手順で行います。

### 1 ホーム画面で[ドライブのバックアップ]をクリックします。



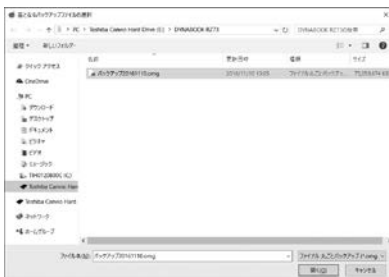
### 2 [ドライブ操作]リボンバー内の[ドライブのバックアップ設定]をクリックします。

ドライブのバックアップ設定画面が表示されます。

### 3 追加バックアップを有効にします。



### 4 [...] をクリックして元となるバックアップファイルを選択し、[開く] をクリックします。



- バックアップファイルは、バックアップしたときに指定した場所（外付けハードディスクやネットワークの共有フォルダーなど）にあります。外付けハードディスクなどにバックアップファイルを保存しなかった場合、バックアップファイルは次のフォルダーにあります。  
C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Backup\Windows Backup Files\

このフォルダーは隠しフォルダーとなっていますので、次の方法で隠しフォルダーを表示してください。

- Windows 7の場合

エクスプローラーの[整理] ボタンからフォルダーと検索のオプションをクリックし、[表示]タブで隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示するを有効にします。

- Windows 8(8.1)/10の場合

エクスプローラーのリボンメニューから[表示] タブを選択して、隠しファイルを有効にします。

## 5 [OK]をクリックして設定画面を閉じます。

## 6 [ジョブとして追加]をクリックします。

## 7 ジョブの保存画面で、スケジュール、およびバックアップのファイル名などを指定します。





- ジョブの各種設定についての詳細は、[ヘルプ] ボタンをクリックしてオンラインヘルプをご覧ください。

## 8 増分バックアップを行うか差分バックアップを行うかを決定づけるため、ジョブ保存画面の[バックアップ] タブ内にある【最後に作成されたバックアップファイルを基に次の追加バックアップを行う】の有効・無効を切り替えます。



有効にすると増分バックアップ、無効にすると差分バックアップとなります。通常は「有効」のままご利用ください。

- 増分バックアップを行うには、ドライブのバックアップ設定内のバックアップ処理 (30 ページ) で「チェックサムを使用して変更されていないデータを管理する」が有効になっている必要があります。

## 9 [OK] をクリックしてジョブの保存画面を閉じます。



# ファイルのバックアップ

フォルダー/ファイル単位でバックアップすることもできます。

## 1 ホーム画面で[ファイルのバックアップ]をクリックします。



## 2 バックアップするフォルダーまたはファイルにチェックマークを付け、[ファイルのバックアップ]をクリックします。



ドライブやフォルダーの[+]をクリックすると、1階層下まで表示されます。

選択したフォルダーの「(条件)」をクリックすると、フォルダー内で特定のファイル拡張子やワイルドカードに一致するファイルのみをバックアップしたり、または除外したりすることができます



ファイルのバックアップダイアログが表示されます。

### 3 バックアップする対象、およびバックアップファイルの保存先とファイル名を確認します。



- 保存先は、[...]をクリックすると変更できます。保存先は、バックアップするシステムハードディスク以外の場所（外付けハードディスクやネットワークの共有フォルダーなど）をお勧めします。
- 保存されるバックアップのファイル名は変更できます。

### 4 [開始]をクリックします。

ファイルのバックアップが開始されます。

バックアップが完了したら、レポートが表示されます。



- バックアップには、時間がかかります（バックアップするファイルの総サイズなどによって異なります）。完了まで、パソコンをシャットダウンしないでください。
- バックアップ先（バックアップファイルの保存先）には、十分に余裕のある場所を指定してください。
- バックアップ中に空き容量が足りなくなった場合、別の保存フォルダーの指定を促すメッセージが表示され、バックアップファイルは分割されます。バックアップファイルが分割されても、復元する際にすべての分割バックアップファイルが1つのフォルダーにあれば復元は可能です。
- ネットワークの共有フォルダーをバックアップファイルの保存先として指定する場合、アクセス資格情報を設定する必要があります。次のメッセージが表示されたら [はい] をクリックしてアクセス資格情報を設定してください。詳しくは、「アクセス資格情報の設定」(60ページ)をご覧ください。



## 5 [閉じる]をクリックします。

ファイルのバックアップ画面に戻ります。



- ファイルのバックアップにはドライブ情報は含まれません。
- ファイルのバックアップダイアログで [設定] をクリックすると、作成するバックアップファイルにコメントを付けたり、バックアップ完了後の処理を設定できます。
- [ジョブとして追加] をクリックすると、一定期間ごとに自動的にファイルのバックアップを行えます。
- [ツール] リボンバー内の [バックアップファイル情報] をクリックすると、選択したバックアップファイルの情報を表示できます。
- [ツール] リボンバー内の [バックアップファイルの検証] をクリックすると、バックアップファイルに問題がないかどうかを検証できます。

# 復元

## ドライブの復元

バックアップファイルからディスクやドライブを復元します。

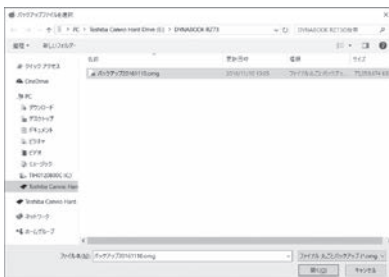


- システムディスク (Cドライブ) を復元する場合は、「システムディスクを復元する」(48ページ)をご覧ください。

### 1 ホーム画面で[復元を開始]をクリックします。



### 2 復元に使用するバックアップファイルを選択し、[開く]をクリックします。





- バックアップファイルは、バックアップしたときに指定した場所（外付けハードディスク、ネットワークの共有フォルダーなど）にあります。外付けハードディスクなどにバックアップファイルを保存しなかった場合、バックアップファイルは次のフォルダーにあります。

C:\¥ProgramData¥ ファイナル丸ごとバックアップ¥ ファイナル丸ごとバックアップ¥バックアップ ファイル¥

このフォルダーは隠しフォルダーとなっていますので、次の方法で隠しフォルダーを表示してください。

- Windows 7の場合  
エクスプローラーの[整理] ボタンからフォルダーと検索のオプションをクリックし、[表示]タブで隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示するを有効にします。
- Windows 8(8.1)/10の場合  
エクスプローラーのリボンメニューから[表示] タブを選択して、隠しファイルを有効にします。

### 3 左の[元のドライブ] から復元するパーティションやドライブにチェックマークを付けます。その後、右の[対象のドライブ]の復元先となるパーティションやドライブにチェックマークを付けます。



- 現在起動中のシステムドライブには復元できません。システムドライブを復元するには、システムディスクを復元する(48 ページ)をご参照ください。



- ディスクやドライブを複数同時に指定できますが、復元先には元々のディスク、またはドライブを選択する必要があります。よくわからない場合は、ディスク、またはドライブを1つずつ復元することをお勧めします。

#### 4 [ドライブの復元]をクリックします。

ドライブの復元ダイアログが表示されます。

#### 5 表示されている内容を確認し、[開始]をクリックします。

復元処理が開始されます。

処理が完了したらレポートが表示されます。



#### 6 [閉じる]をクリックします。

ドライブの復元画面に戻ります。

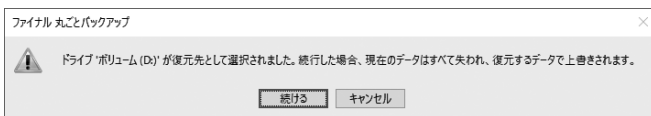


- ドライブ復元中に新しいドライブが作成されると、Windowsから「ディスクがフォーマットされていません」のメッセージが表示されることがあります。無視して閉じてください。



## 復元中に表示されるメッセージについて

- ドライブ X が復元先として選択されました。続行した場合、現在のデータはすべて失われ、復元するデータで上書きされます。



パーティション (ドライブ) 単位で復元する際に、特定のドライブを復元先として選択した場合に表示されます。[続ける] をクリックすると、復元先のデータはすべて削除されて、復元されるデータで上書きされます。

- ドライブ X が対象として選択されました。このドライブのデータはすべて上書きされます。続行しますか？

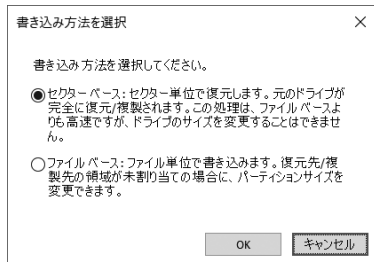


すでにパーティション (ドライブ) が存在するディスクを復元先として指定した場合に表示されます。

[既存のパーティションの後方に追加] を選択して [追加] をクリックすると、復元先に存在するパーティションを削除せず、その後方にパーティションを作成して復元します。この場合、パーティションを追加できる状態でないときは復元できずエラーメッセージが表示されます。

[既存のパーティションを消去] を選択して [削除] をクリックすると、復元先に存在するパーティションはすべて削除されて新たにパーティションが作成され、そこに復元されます。

●書き込み方法を選択してください。



パーティション(ドライブ)単位で復元する際に、復元先として未割り当て領域を選択した場合、または復元元と復元先のファイルフォーマットや容量が一致しない場合に表示されます。

[セクターベース]を選択すると、セクター単位での復元が行われます。復元元と同じ容量をもつパーティションが作成され、バックアップされたデータとバックアップ方式がそのまま反映されます。通常、下記のファイルベースよりも高速に復元できます。

[ファイルベース]を選択すると、ファイル単位での復元が行われます。復元先が未割り当て領域の場合、パーティションのサイズを変更できます。ファイル単位で復元が行われるため、復元元と復元先の容量が一致しなくても対応できます。ただし、システムディスクを復元する場合はファイルベースを選択できません。「セクターベース」で行ってください。



## システムディスクを復元する

現在起動中のシステムディスクには復元できません。

そこで、起動可能なメディア(起動メディア)でWindows PEと呼ばれるシステムをパソコンで起動し、復元に必要な最低限の本ソフトウェアを動作させます。起動可能なメディアの作成方法については、16ページをご覧ください。これは、通常バックアップの前に行います。

### 起動メディアを使用して復元する

システムディスクを復元するために、作成した起動メディアでWindows PEを起動します。

下記の通り操作を行ってください：

**1 パソコンの電源をオンにします。**

**2 CD-ROMで起動する場合は、CD-ROMを挿入します。**

**USBメモリで起動する場合は、起動用USBメモリを接続します。**

Windows PEが起動し、使用許諾契約書が表示されます。



- CD-ROMやUSBメモリなどからパソコンを起動するためには、BIOS/UEFIでCD/DVDまたはUSBメモリの起動順位を最優先に設定しておく必要があります。詳しくはパソコンメーカーまでご確認ください。
- 起動用メディアの作成方法については、「起動可能なメディアを作成する」(16ページ)をご覧ください。
- CD/DVDで起動する場合は、Windowsの起動前に、確認のメッセージが表示されます。キーボードのキーを1回押します。キーを押すと、起動処理が再開されます。

```
Press any key to boot from CD or DVD..._
```

### 3 使用許諾契約書の内容をよく読みいただき、[使用許諾契約の内容に同意する]をチェックマークして[OK]をクリックします。



コントロールパネルが表示されます。

### 4 特に表示に問題がなければ、そのまま[OK]をクリックします。

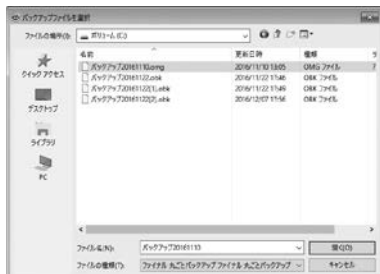


ファイナル丸ごとバックアップのホーム画面が表示されます。

### 5 [復元]をクリックします。



## 6 復元に使用するバックアップファイルを選択し、[開く]をクリックします。



- バックアップファイルがネットワークフォルダーに保存されている場合、復元を開始する前にネットワークドライブの割り当てを行ってください。ネットワークドライブの割り当ては[ツール] リボンバーの[ネットワークドライブの割り当て]から行います。



- バックアップファイルは、バックアップしたときに指定した場所（外付けハードディスク、ネットワークドライブなど）にあります。

## 7 復元するディスクにチェックマークを付けます。

おまかせバックアップでバックアップしている場合は、元のドライブはディスク全体（通常、ディスク 0）を選択してください。復元先も同様にディスク全体（通常、ディスク 0）を選択してください。特定のパーティションのみをバックアップした場合は、そのパーティション同士を選択してください。



●ディスクやドライブを複数同時に指定できますが、復元先には元々のディスク、またはドライブを選択する必要があります。よくわからない場合は、ディスク、またはドライブを一つずつ復元することをおすすめします。

## 8 [ドライブの復元を開始]をクリックします。

ドライブの復元ダイアログが表示されます。

## 9 表示されている内容を確認し、[開始]をクリックします。

復元処理が開始されます。

処理が完了したらレポートが表示されます。

## 10 [閉じる]をクリックします。

ドライブの復元画面に戻ります。

## 11 USBメモリやCDを取り出し、パソコンを再起動します。

システムが正しく復元できていることを確認してください。

# ファイルやフォルダーの復元

バックアップファイルからファイルやフォルダーを復元します。

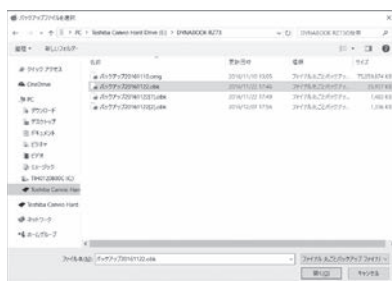


- ここで説明するファイルやフォルダーの復元方法は、ファイルのバックアップ(40ページ)で作成したバックアップファイルでのみ可能です。
- おまかせバックアップ(22ページ)またはドライブのバックアップ(25ページ)で作成したバックアップファイルからは、この方法ではファイルやフォルダーのみの復元は行えません。おまかせバックアップまたはドライブのバックアップで作成したバックアップファイルからファイルやフォルダーのみを復元したい場合は、バックアップファイルをドライブとして割り当て(54ページ)を行ってください。

## 1 ホーム画面から[復元]をクリックします。



## 2 復元に使用するイメージファイルを選択し、[開く]をクリックします。





- バックアップファイルは、バックアップしたときに指定した場所（外付けハードディスク、ネットワークの共有フォルダーなど）にあります。外付けハードディスクなどにバックアップファイルを保存しなかった場合、バックアップファイルは次のフォルダーにあります。

- Windows 7/8(8.1)/10の場合

C:\¥ProgramData¥ ファイナル丸ごとバックアップ¥ ファイナル丸ごとバックアップ¥バックアップ ファイル¥

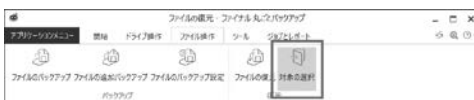
このフォルダーは隠しフォルダーとなっていますので、次の方法で隠しフォルダーを表示してください。

- Windows 7 の場合

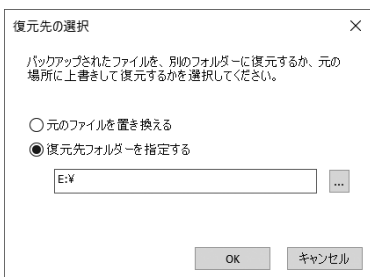
エクスプローラーの[整理] ボタンからフォルダーと検索のオプションをクリックし、[表示] タブで隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示するを有効にします。

- Windows 8(8.1)/10 の場合は、エクスプローラーのリボンメニューから[表示] タブを選択して、隠しファイルを有効にします。

### 3 [ファイル操作]リボンバー内の[対象の選択]をクリックします。



### 4 復元先を指定してOKをクリックします。



### 5 [ファイルの復元]をクリックします。

ファイルの復元ダイアログが表示されます。



- 左画面のドライブやフォルダーの[+]をクリックすると、1階層下まで表示され、フォルダー名をクリックすると右画面にその内容が表示されます。



## 6 表示されている内容を確認し、[開始]をクリックします。

復元処理が開始されます。

処理が完了したらレポートが表示されます。



## 7 [閉じる]をクリックします。

ファイルの復元画面に戻ります。



- 特定のファイルやフォルダーを選んで復元することはできません。



- 復元先に、既に復元されるファイルと同じ名前のファイルが存在し、そのファイルが使用中などでロックされているされている場合、ファイルの復元を行うことができません。ロックされているファイルを復元したい場合は、起動メディアから Windows PE を起動して復元を行うか、いったん別の場所に復元してください。
- 復元先に、既に復元されるファイルと同じ名前のファイルが存在する場合、強制的に復元されるファイルで上書きされます。



## バックアップファイルをドライブとして割り当て

バックアップファイルをドライブとして割り当てると、バックアップファイル中のフォルダーやファイルだけを復元することもできます。

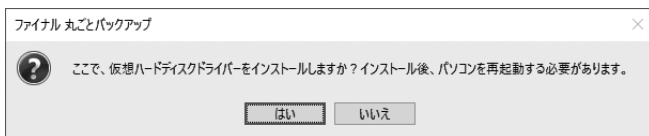


- 本ソフトウェアのインストール時によって、ドライブとして割り当てするためのドライバーのインストールが追加で必要になります。メッセージが表示された場合は、画面の指示通りに操作を行って、ドライバーをインストールしてください。
- 追加バックアップファイルや分割されたバックアップファイルもドライブとして割り当てを行うことができます。その場合もバックアップファイルが外付けハードディスク、またはローカルハードディスクにある必要があり、さらに1つのフォルダーにすべての関連するバックアップファイルを置いておく必要があります。

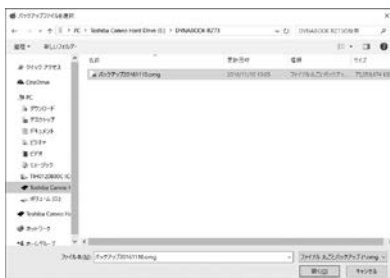
### 1 [ツール]リボンバー内の[ドライブの割り当て]をクリックします。



- ここでドライバーのインストールを促すメッセージが表示された場合、[はい]をクリックしてドライバーのインストールを行ってください。



## 2 バックアップファイルを選択し、[開く]をクリックします。



- バックアップファイルは、バックアップしたときに指定した場所（外付けハードディスク、ネットワークの共有フォルダーなど）にあります。  
外付けハードディスクなどにバックアップファイルを保存しなかった場合、バックアップファイルは次のフォルダーにあります。

C:\¥ProgramData¥ファイナル丸ごとバックアップ¥ファイナル丸ごとバックアップ¥バックアップ ファイル¥

このフォルダーは隠しフォルダーとなっていますので、次の方法で隠しフォルダーを表示してください。

- Windows 7の場合

エクスプローラーの [整理] ボタンから [フォルダーと検索のオプション] をクリックし、[表示] タブで [隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示する] を有効にします。

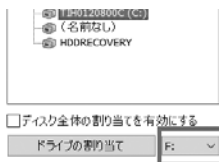
- Windows 8(8.1)/10の場合

エクスプローラーのリボンメニューから [表示] タブを選択して、隠しファイルを有効にします。

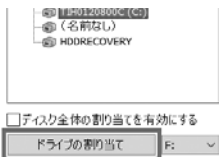
### 3 ドライブとして割り当てるボリュームを選択します。



### 4 必要に応じてドライブ文字を選択します。



### 5 [ドライブの割り当て]をクリックします。 ドライブとして使用できるようになります。



### 6 [閉じる]をクリックします。

### 7 Windows エクスプローラーなどで割り当てたドライブを開き、必要なファイルなどをコピーします。




- 別のパソコンのバックアップファイルをドライブとして割り当てた場合、アクセス制限によって目的のフォルダーが開けないことがあります。その場合は、アクセスできないフォルダーをそのままローカルハードディスクなどにコピーしてください。
- ドライブの割り当てを解除するには、[ツール] リボンバー内の [ドライブの割り当てを解除] をクリックして、該当の割り当てたドライブの割り当て解除してください。



## アクセス資格情報の設定

ネットワークの共有フォルダーにバックアップファイルを保存したり、バックアップファイルから復元を行うには、アクセス認証情報の設定が必要になります。

**1** リボンバー右の「プログラム設定」アイコン  をクリックし、[セキュリティ]タブを選択します。

**2** [データベースを作成]をクリックします。



**3** パスワードを入力します。

再入力の欄には同じパスワードを入力してください。  
このパスワードは暗号化され、保存されます。

パスワードの入力

×

資格情報は不正アクセスから保護するため暗号化されています。パスワードを入力してください。:

パスワード:

再入力:

OK

キャンセル

## 4 [追加]をクリックします。



## 5 ネットワークパス欄に、バックアップファイルの保存先または読み込み元のパスを指定します。

入力する書式は次のとおりです。

¥¥ コンピューター名 ¥フォルダー名、または ドメイン名 ¥フォルダー名 ¥ユーザー名

また、すべての共有フォルダーが設定されたユーザーによって開くことができる場合は、コンピューター名だけを入力できます。

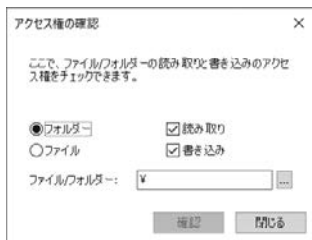


ユーザー名を入力します。ユーザーアカウントの適切な名前を入力する必要があります。

たとえば、特定ドメインアカウントに対する該当するドメインを入力または含める必要があります (例: domain¥user1 または User1@domain など)。

## 6 ユーザーのネットワークパスワードまたはそのユーザーアカウントのネットワークパスワードを入力します。

設定したフォルダーへのアクセス権を入力したユーザーが持っている必要があります。認証情報リスト下部の[認証テスト]で、アクセス状況をチェックできます。



- [ポート番号] はお使いのネットワークで共有フォルダーにアクセスするために定められている場合にのみ指定してください。通常はWindows標準のポート番号が使用されます。
- [説明] の内容は、認証リスト内に表示されます。必要に応じて指定してください。

## FAQ よくある質問

「ファイナル丸ごとバックアップ」のよくある質問と回答集 (FAQ) は、オンラインで利用することができます。「ファイナル丸ごとバックアップ」に関する最新情報は、次の Web サイトをご覧ください。

<http://faq2.backup119.jp/>

**Q** オンラインヘルプはどうやって閲覧できますか。

**A** オンラインヘルプは、本ソフトウェアを実行しているときに F1 キーを押すと表示できます。または、インターネットブラウザで次の URL にアクセスしてください。

<http://finaldata.jp/marugoto/14/help/index.html>

**Q** バックアップは、どれくらいの頻度で実施すべきですか？

**A** 最低でも毎月 1 回、定期的にバックアップを行うことを推奨します。バックアップの頻度が高いほど、データが失われた時に、より新しいデータが復元できます。

**Q** どのドライブをバックアップすべきですか？

**A** 全てのドライブのバックアップを取ることが推奨されます。すなわち、システムドライブ (Windows、通常は C ドライブ) および、すべての個人データや仕事上のデータ (顧客情報、写真や音楽など) が保存してあるデータドライブです。

**Q** バックアップファイルをどこに保存すべきですか？

**A** バックアップ元のドライブが存在するハードディスクにはバックアップファイルを保存しないでください。外付けハードディスクやネットワー



クの共有フォルダーを推奨します。

**Q** 体験版ですべての機能を無制限に使用できますか？

**A** 体験版には機能制限はありません。30日間に限りすべての機能を使用できます。

**Q** どのようにしてCD/DVDにイメージファイルを保存できますか？

**A** CD/DVDに、直接イメージファイルを保存することはできません。次の手順を行ってください。

1. バックアップファイルをいったんハードディスクに保存します。その際、バックアップ設定画面(29ページ)のファイルサイズの設定を行います。保存したい対象のCD/DVDサイズに合わせて、最大イメージファイルサイズを設定してください。バックアップファイルのサイズがここで指定した最大サイズを上回ると、このサイズを上限に複数のバックアップファイルに自動的に分割されます。
2. [ツール]リボンバー内の[CD/DVD/Blu-rayに書き込む]をクリックし、「ディスクライター」ウィザードの画面の指示に従って操作を行ってください。

**Q** 既に存在する大容量のバックアップファイルをCD/DVDに書き込めますか？

**A** CD/DVDの容量より大きなサイズのバックアップファイルを既に作成している場合でも、次の方法で分割できます。

1. [ツール]メニューの[バックアップファイルの変換]を開きます。
2. [追加]をクリックして、バックアップファイルを選択してください。
3. [分割] にチェックを入れ、分割サイズを入力します。保存したい対象のCD/DVDサイズに合わせてください。
4. [開始] をクリックすると、分割されたバックアップファイルが作成されます。変換の際には新たにバックアップファイルが作成され、元のバックアップファイルは削除されません。

**Q** 分割されたバックアップファイルが複数の記憶メディア (CD/DVD) にありますが、問題ありませんか？

**A** 次を実行する場合には注意が必要です。

- ・バックアップファイルからの復元
- ・バックアップファイルをドライブとして割り当て
- ・バックアップファイルを追加バックアップの際の基となるバックアップファイルとして使用
- ・増分バックアップの結合
- ・バックアップファイルの変換

これらの作業を始める前に、分割したバックアップファイルをハードディスク内の一つのフォルダーに保存することを推奨します。この際、必ず復元先のドライブとは別のドライブにこれらのファイルを保存してください。

**Q** すでに作成したバックアップファイルの内容を変更できますか？

**A** [ツール] リボンバー内の [バックアップファイルを変換] から、バックアップファイルの追加や圧縮/暗号化のプロパティを変更することができます。

**Q** ドライブの複製とバックアップの違いはなんですか？

**A** ドライブの複製は、対象のディスク/ドライブを別のディスク/ドライブにそのままコピーを行います。バックアップと復元をすることなく、ディスクやドライブを複製することができます。ただし、圧縮や暗号化はできず、また増分/差分の複製を行うこともできません。

**重要：**ドライブの複製では、コピー先として選択したディスク/ドライブの内容はすべて上書きされます。複製の際には、ハードディスクの使用されていない領域を指定するか、純粋に保存用として使用するドライブを選択してください。

**Q** 追加バックアップを行う利点は何ですか？

**A** 追加バックアップファイルのデータ量は、通常、完全バックアップファイルに比べて少ない点が挙げられます。定期的にバックアップを行う場合、バックアップファイルのサイズを少なくできます。ひいては、バックアップ先ドライブの容量節約に繋がります。（※作業時間は通常の完全バックアップと同等となります。）

**Q** 追加バックアップファイルのサイズが、完全バックアップファイルのサイズよりも大きいですが問題ありませんか？

**A** これは、初回の完全バックアップファイルを作成した時点から後にドライブのデフラグを行った時などに起こる可能性があります。デフラグ作業により新しく構成し直されたファイルセグメントはすべて「変更」として認識されます。

**Q** ファイナル丸ごとバックアップのタスクが時間がかかり過ぎます。また、まったく起動しません。

**A** 動作環境を確認してください。また、最新のドライバが使用されているか確認をしてください。

**Q** バックアップ中もパソコンでの作業を継続できますか？

**A** バックアップ中も、パソコンでの作業を続けることができます。  
ファイナル丸ごとバックアップでは、バックアップ元のドライブが使用中の場合に、現在の状況を「一時ファイル」に保存します。この一時ファイルを利用してバックアップを行うことにより、パソコンで作業を行っている間もバックアップ可能となっております。

**Q** 「ドライブをロックできません」というメッセージが表示されます。これはバックアップに影響がありますか？

**A** システム以外のドライブ（データドライブ等）をバックアップする際、ドライブをロックする設定になっている場合に表示されることがあります。これは、バックアップを行うドライブが使用中でロックできなかったこと

を示しています。一般的に、このメッセージはバックアップ作業に影響はありません。ロックできなくても、一時ファイルを利用して問題なくバックアップを行うことができます。

## **Q** 一時ファイルとはなんですか？ なぜ作成されますか？

**A** 一時ファイルは、バックアップやドライブの複製を行うときに作成されます。一時ファイルは、バックアップ/複製時に対象のドライブが使用中の場合にデータの整合性を保証するため必要とされます。ただし、バックアップ/複製時にドライブをロックした場合は、一時ファイルは作成されません。

通常、この一時ファイルはバックアップ完了後に自動的に削除されますが、バックアップ中にシステムに問題が発生したり、落雷などによりコンピュータが強制シャットダウンされた場合などに一時ファイルが削除されないこともあります。一時ファイルは10GBに達することもあるため、空き容量減少の原因になります。その場合は次のようにして一時ファイルを手動で削除してください。

1. Windows エクスプローラーまたはマイコンピュータを開きます。
2. 隠しファイルをWindows エクスプローラーで表示できるようにします。
  - ・Windows 7の場合は、エクスプローラーの整理ボタンからフォルダーと検索のオプションをクリックし、表示タブで隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示するを有効にします。
  - ・Windows 8(8.1)/10の場合は、エクスプローラーのリボンメニューから表示タブを選択して、隠しファイルを有効にします。
3. 各ドライブの直下にある“Tempxxxxxxxxxxxxxxxxxx” (xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxはランダムな数値)のファイルを削除してください。

なお、Windowsが隠しているファイルやフォルダーはWindowsの動作に必要なものです。不用意に削除されることを防ぐために隠していますので、問題が解決しましたら、上記設定を元に戻してください。

**Q** バックアップファイルをドライブとして割り当てた際、バックアップしていないドライブがエクスプローラで表示されるのはなぜですか？

**A** ファイナル丸ごとバックアップは、ディスク全体をマウントする際にディスクの情報 (MBR 等) を読み取り、バックアップ元ディスク全体のパーティション (ドライブ) をマウントします。1 ドライブしかバックアップしていても、バックアップファイルにはディスク全体の情報が含まれます。しかし、バックアップしていないドライブは実データがないため、これらをファイルシステムに割り当てることはできません。結果的に、バックアップされていないドライブが「RAW」、つまりフォーマットされていないものとして表示されます。

**Q** ダイナミックディスクの複製を行う際に注意することはありますか？

**A** ダイナミックディスクのスパンボリューム、ストライプボリュームまたは RAID5 ボリュームの複製を行う際、ベーシックディスクの空き領域を指定すると、自動的にプライマリパーティション (拡張パーティションを指定した場合は論理ドライブ) に変換されて複製されます。変換したくない場合は、ダイナミックディスクに複製するか、ダイナミックディスクそのものを複製してください。

**Q** バックアップファイルのサイズがハードディスクより大きくなります。なぜですか？

**A** これはハードディスクの全てを全セクター方式、または拡張全セクター方式でバックアップした場合に発生します。これらの方式は、ビットごとにデータを保存し、バックアップファイル内とハードディスク上のファイナル丸ごとバックアップのメタデータも含まれるためです。

## ■ アクセス資格情報の設定に関するよくある質問

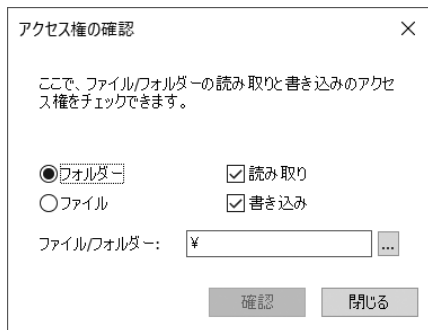
**Q** 使用できるコンピューター名やドメイン名はどこ表示されますか？

**A** 以下の手順を実行してください。

Win + Pauseキーを押します。Pauseキーがキーボードにない場合、エクスプローラーの「PC」または「コンピューター」を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

**Q** ネットワークフォルダーへのアクセス権を確認する方法はありますか？

**A** ファイナル丸ごとバックアップの [プログラム設定] ダイアログの [セキュリティ] タブで確認できます。



ファイナル丸ごとバックアップでのアクセス権の確認

確認したいフォルダーのパスを入力して [確認] をクリックしてください。

## 技術サポート情報

### ▶ユーザー登録

ユーザー登録は、技術サポートを受けたり、製品の最新版情報を受け取るなどのために必要です。

- (1) 電子メール／チャット／電話による技術サポート
- (2) ダウンロードによるアップデートの提供
- (3) ライセンスキー（プロダクトキー）やトラッキング（ライセンスキーがわからなくなった場合、登録していただいたライセンスキーの記録を調査してお知らせします）
- (4) 電子メールによる優待販売などの告知

### ▶登録方法

<https://www.aosdata.co.jp/userreg> からオンライン登録を行ってください。

### ▶アップデートプログラム

アップデートプログラムは、本ソフトウェア起動時に自動的にチェックされます。またはリボンバー右のヘルプメニューから「更新の確認」をクリックすることでも可能です。

### ▶よくある質問と回答集

「ファイナル丸ごとバックアップ」のよくある質問と回答集（FAQ）は、オンラインで利用することができます。「ファイナル丸ごとバックアップ」に関する最新情報は、次のWeb サイトをご覧ください。

<http://faq2.backup119.jp/>

## ▶技術サポート

ご購入頂きましたソフトウェアの操作上のお問合せや、技術的なご質問につきましては、AOSデータ技術サポートまでお問合せください。専門スタッフが問題解決のお手伝いをさせていただきます。なお、サポートをお受けになる場合は、下記事項を確認の上、ご連絡ください。

1. 電源が正しく接続されており、ハードディスクおよび接続コネクタ類は正しく接続されていますか？
2. お客様のご使用になっているパソコンは、「必要なシステム」(6ページ)を満たしていますか？
3. パソコンのOS、ドライブ構成、容量、その他周辺機器はどのようになっていますか？
4. 障害発生後、どのような操作を行いましたか？
5. 本ソフトウェアを実行して、[ヘルプ]メニューの[バージョン情報]を選択して表示される詳細なバージョン番号はいくつでしょうか？  
(例：Version 14.0 Build 394)



## 使用許諾契約書

### 「ファイナル丸ごとバックアップ」のご使用前に必ずお読みください。

下記の使用許諾契約（以下「本契約」）は、お客様とAOSデータ株式会社（以下「当社」）との間に締結される契約書です。

お客様がCD-ROMの入ったプラスチックケースのビニールカバーを開封するか（ダウンロードによる購入の場合は、製品の購入ページにおいて、本契約に「同意する」をクリックしたとき）、または、ソフトウェアをインストール、複製もしくは使用した場合、お客様が本契約の条項に同意され、ソフトウェアの使用許諾契約が成立したものとみなしますので、ソフトウェアをインストールされる前に本契約書をよくお読み下さい。本契約は、ソフトウェアの使用権、保証および責任の限定について規定しています。

お客様が本契約に同意されない場合、本契約の対象となるソフトウェアのインストールおよび使用は許可されません。お客様が本契約に同意されない場合、(1) ソフトウェアを未使用のまま、(2) お買い上げから60日以内に、(3) ご購入を証明するものを添えて、(4) お買い上げ店に購入商品を全てお返し下さい。その場合は、購入代金を返金いたします。

（ダウンロードによる購入の場合には、本契約に「同意しない」をクリックして下さい。購入手続きはキャンセルされます。また、ダウンロード販売という性質上、同意のうえでご購入された製品の返品・返却は一切出来ませんのでご注意ください。）

### 使用許諾契約

#### 1 使用権の許諾

本契約は使用権の許諾についての契約です。当社はお客様に対し、「ファイナル丸ごとバックアップ」（以下「本ソフトウェア」）を本契約記載の条件に従い使用する権利を許諾します。本契約においてお客様に明示的に許諾されない権利は、当社に留保されます。

#### 2 著作権等

本ソフトウェアは、当社および本ソフトウェアの使用許諾権者の知的財産であり、著作権法、特許法、その他の国内法および国際条約により保護されています。本ソフトウェアおよびその複製物の全てならびにユーザーズマニュアルに関する著作権、特許権、商標権その他の全ての知的財産権は、当社および本ソフトウェアの使用許諾権者に帰属します。本ソフトウェアにMicrosoft社のWindows PE、Windows自動インストールキット(AIK)または第三者のプログラムが含まれる場合、または本ソフトウェアに関連してMicrosoft社のWindows PE、Windows自動インストールキット(AIK)を使用する場合、お客様は、それらのプログラムの使用許諾条件にも従うものとします。

#### 3 使用権の範囲と制限

1. 当社はお客様に対し、お客様が自己所有するコンピュータ（お客様が自己使用するリースまたはレンタル物件を含む）1台において本ソフトウェアをインス

トールして使用する非独占的、再許諾不可能で、かつ譲渡不可能な権利を許諾します。本ソフトウェアを2台以上のコンピュータにインストールして使用する場合は、追加で1台につき1ライセンスが必要となります。お客様は、当社の書面による事前の承諾を得ることなく、本ソフトウェアをお客様の提供するサービス（有償無償を問わず、営利目的または付加価値サービスとして第三者に提供されるサービスを含む）の一環として使用することはできません。

2. 本契約で許諾された使用方法を逸脱した本ソフトウェアの使用は、全て本契約の違反になります。使用権の範囲を超えた使用について、お客様は、すみやかに当社に対して報告しなければなりません。お客様と当社は、当該使用権の範囲を超えた逸脱使用分について調整し、合意の形成をはかるものとします。逸脱使用分についての合意がなされるか、逸脱使用分の使用が中止されるまで、お客様は当社に対し、当該逸脱使用分について当社の価格表に基づいて算定される金額を補償しなければなりません。逸脱使用分の補償額は4年定額法減価償却の考えに基づいて算定されるものとします。使用権の範囲を超えた使用について当社に対する報告がなされなかった場合、お客様は当社に対し、当社の価格表に基づいて算定される逸脱使用分の使用料の3倍に相当する金額を支払うものとします。

3. お客様は、バックアップ目的でのみ本ソフトウェアの複製を作成することができます。ただし、複製された物には原版にある商標、著作権等の表示が全て含まれていなければならないものとし、お客様自身が複製を保持しなければならないものとします。

4. お客様は、本ソフトウェア、ユーザーズマニュアルおよび本ソフトウェアのシリアル番号（以下「ライセンスキー」）を貸与、販売、譲渡または公共の場へ転送することはできないものとし、また、本ソフトウェア、ユーザーズマニュアルおよびライセンスキーに担保権を設定したり、本ソフトウェアの再使用許諾を行ったりすることはできないものとします。

5. お客様は、本ソフトウェアをいかなる理由によっても逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング、カスタマイズ、または改造できないものとします。お客様による改造等の行為に起因して何らかの障害が発生した場合、当社は、当該損害に関して一切の責任を負わないものとします。

#### 4 サポートサービス

1. 当社は、当社が定める手続に従ってユーザ登録を行ったお客様に対し、当該ユーザ登録の日から1年を経過する日までを有効期間として、電話またはメールによるサポートサービスを提供いたします。ただし、インターネット接続環境またはメールアドレスをお持ちでないお客様においては、サポートサービスのうち一部が有料となります。

2. お客様は、ユーザ登録の内容に変更が生じた際は、当社に対し遅滞なく届出を行うものとします。

3. サポートサービスの提供に関する当社の義務は、本条第1項記載の内容に関する合理的な努力を行うことに

限られるものとし、

4. 当社は、お客様が以下のいずれかに該当する場合は、サポートサービスを提供する義務を負わないものとします。
  - (a) 当社が定める手続に従ったユーザ登録を行っていないお客様
  - (b) 本条第2項所定の変更の届出を行っていないお客様または当該変更の届出に不備があるお客様
  - (c) サポートサービスの有効期間内にないお客様
  - (d) 本ソフトウェアを、第12条記載の日本語バージョン以外のオペレーティングシステムとともに使用しているお客様
  - (e) 本ソフトウェアに関する内容でない質問のあるお客様
5. 当社は、以下の場合、お客様へ事前の通知を行うことなくサポートサービスの提供を停止できるものとします。
  - (a) システムの緊急保守を行うとき
  - (b) 火災等の不可抗力により、システムの運用が困難または不可能になったとき
  - (c) 上記以外の緊急事態により、当社がシステムを停止する必要があると判断するとき
6. お客様は、サポートサービスの有効期間が終了する日までに当社が定める手続に従い、当社と別途サポートサービス契約を締結することによって、引き続きサポートサービスの提供を受けることができます。なお、サポートサービス契約の締結には別途費用が必要となります。
7. 前各項にかかわらず、当社が本ソフトウェアのサポートサービスの提供を終了・中止した場合、その後、当社はお客様に対し、サポートサービスを提供する義務を負わないものとします。

## 5 保証

1. 当社は、購入日から60日を超えない期間に限り、本ソフトウェアの媒体(以下「メディア」)に物理的な欠陥がないこと、および本ソフトウェアが通常の使用環境においてユーザズマニュアル等に記載の通りに動作することを保証します。メディアに物理的な欠陥があった場合、本ソフトウェアに領収書等の購入日を証明するものを添えてお買い上げになった販売店までお戻し下さい。当該メディアを無料で交換いたします。その場合、交換後のメディアには、交換前のメディアに適用されるべき保証期間が適用されるものとします。なお、ダウンロードによる購入の場合には、本項規定の適用はありません。
2. 前項の保証を除き、当社は、本ソフトウェアがお客様のご要望に合致すること、および本ソフトウェアの動作に問題がないことを保証いたしません。本ソフトウェアは現状有姿のままお客様に提供され、本ソフトウェア、ユーザズマニュアルその他の本契約に基づき提供されるサービスについて、当社および本ソフトウェアの使用許諾権者は、一切の保証を行いません。当社および本ソフトウェアの使用許諾権者は、本ソフトウェアの商品性、特定の目的への適合性、権利、および権利侵害について何ら保証いたしません。
3. 第4条第1項および第2項に記載されるユーザ登録もしくはユーザ登録変更の届出がなされない場合、またはその内容に不備がある場合、当社からお客様への通知、郵便その他のご連絡の不達により生じる不利益および損害につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

だきます。

4. お客様によるソフトウェアプログラム(本ソフトウェアを含むがこれに限らない)の選択、導入、使用および使用結果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。本ソフトウェアもしくはユーザズマニュアルの使用の結果、またはサポートサービスを受けたこと、もしくは第4条第4項および第5項によりサポートサービスの提供を受けられないことに起因してお客様または第三者に生じた間接的損害、特別損害、偶発的損害、付随的損害、結果的損害および逸失利益に関して、当社は一切の責任を負いません。

## 6 責任の限定

お客様の損害に対して、当社は、お客様の直接損害に対してのみ賠償責任を負うものとし、当社が負担する賠償責任の総額は、お客様が本ソフトウェアに対して支払われた対価の額を上限とします。理由の如何を問わず、当社は、間接損害、特別損害、偶発的損害、付随的損害、結果損害(データの喪失を含むが、これに限られません)および逸失利益に関して賠償責任を負いません。

## 7 契約の解除

1. お客様は、本ソフトウェアとその複製物全てを破棄することにより本契約を終了させることができます。この場合、本契約に基づきお客様が支払われた一切の対価は返還されません。
2. 本契約に関してお客様に違反があった場合、当社がお客様に対し、文書をもって契約違反の治癒を求める通知を行った場合、通知日から30日の間に当該違反が治癒されなかったときは、当社は、本契約を終了させることができます。本契約が終了した場合、お客様は、本ソフトウェアを使用することはできず、本ソフトウェアとその複製物全てを破棄するものとします。

## 8 守秘義務

1. お客様は、本契約記載の内容、および本契約に関連して知り得た情報(本ソフトウェアのライセンスキー、サポートサービスに関連する電話番号、ファックス番号、メールアドレス、URL、ID、パスワードおよびサポートサービスの一斑としてコンピュータネットワークを介して提供される情報内容を含む)につき、当社の書面による承諾を得ることなく第三者に開示、漏洩しないものとし、かつ、本契約における義務の履行または権利の行使に必要な場合を除き、方法を問わず利用しないものとします。ただし、国家機関の命令による開示等正当なる事由に基づき開示する場合は、この限りではありません。ただし、その場合には、お客様は当社に対し、速やかに事前の通知を行うものとします。
2. 前項にかかわらず、以下の各号に定める情報については前項の規定を適用しないものとします。
  - (a) 当社の機密情報を使用または参照することなく独自に開発した情報
  - (b) 開示を受けた時に既に知っていたことを証明できる情報
  - (c) 開示を受けた後、自己の責によらず公知となった情報
  - (d) 第三者から守秘義務を負わず適法に入手した情報
  - (e) 書面により開示を許諾された情報
  - (f) 法律に基づき開示が求められた情報
3. 前各項の規定は、本契約が解除、期間満了その他の事由によって終了したときであっても、なおその効力を有

するものとします。

### 9 アップデート

当社は、お客様に対し、本ソフトウェアのアップデートプログラムの提供をすることがあります。お客様がアップデートプログラムを受領した場合、当該アップデートプログラムは本ソフトウェアの一部として本契約に従うものとします（ただし、本契約よりアップデートプログラムに付属する契約が優先する場合は除く）。

### 10 輸出

本ソフトウェアおよび付属文書は、日本、ドイツその他の国の輸出入の規制を受けることがあります。お客様は、本ソフトウェアを輸出、再輸出または輸入する場合、適用を受ける全ての法律等による規制を遵守し、お客様の責任においてそのために必要な許可を得るものとします。

### 11 一般条項

1. 本契約は、日本国法に準拠するものとします。本契約に起因する紛争の解決については、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とします。本契約の一部の規定が無効と判断された場合、その規定は削除するものとします。
2. 当社は、お客様へ事前の告知を行うことなく本契約の内容、サポートサービスの内容その他の告知内容を変更できるものとし、変更後の内容を当社webサイトに掲示するものとします。当該変更がなされた場合、従前の本契約の内容、サポートサービスの内容および告知内容は無効となり、変更後の本契約の内容、サポートサービスの内容および告知内容が適用されるものとします。

### 12 システム要件

本ソフトウェアの動作には、Windows 7、Windows 8/8.1、およびWindows 10のオペレーティングシステムの日本語版が必要です。これらのオペレーティングシステムを使用しなかった場合、本契約およびユーザーズマニュアル等に記載されたアプリケーションの内容は実現されません。なお、ネットワークを介して本プログラムを制御することはできません。

©2005-2019 AOS DATA, Inc. All rights reserved worldwide.

[illegible]

[illegible]



**AOSデータ株式会社**

**<http://aosdata.co.jp/>**

**メール: [backup@aos.com](mailto:backup@aos.com)**